



なぜ制服があるのだろう？

第70回全日本吹奏楽コンクール香川県大会

(8月2日 レグザムホール)

吹奏楽部 中学校部門B 金賞

県中学校総合体育大会 (7月21日～29日)

☆陸上

1年男子 100m 3位 資延 侑梨弥
3年男子 100m 4位 岩田 優人

☆サッカー

1回戦 詫間 0 - 8 丸亀西

☆剣道

男子団体1回戦 詫間 0 - 2 綾川

☆バレーボール

女子1回戦 詫間 0 - 2 勝賀

☆バドミントン

男子個人シングルス ベスト8 宮崎 央輔

☆卓球

男子団体1回戦 詫間 不戦勝 綾歌
2回戦 詫間 1 - 3 下笠居

2学期が始まり、早くも4日が過ぎようとしています。始業式で話したように、2学期の大きな行事である修学旅行や合唱コンクールなどについては、今後の新型コロナウイルス感染症の状況次第ということになります。

さて、9月2日(金)に「ホーム&スクール」でお知らせしたように、令和5年度から使用することのできる三豊市内中学校共通のプレザー制服のデザインが決まりました。今年の3月から5回、市内各中学校のPTA会長や校長が集まって制服についての検討会をしてきました。私は、この会に参加していくうちに、「日本の多くの学校はなぜ制服を採用しているのか？」ということに改めて考えざるをえませんでした。もちろん、制服のない小・中学校、高校もありますが、数は多くありません。また、学校だけでなく多くの会社、商店や飲食店などでも制服が採用されています。

制服は、学校のルール・規則の中でも特に重要な項目の一つです。昨年度の「浦島伝説」No.30で、「ルール・規則はなぜあるのか」について私の意見を書きました。前半部分を要約すると、次のようになります。

校則をゼロにし、服装も髪型も授業形態も自由にした東京の私立高校が話題を呼び、開校した当時は人気があったが、7、8年後には生徒がゼロになって閉校してしまった。ある生徒の感想。「何でも自由でいいと言われて、最初は嬉しかったけど、自分も周囲の人も、1ヶ月くらいすると、学校に来ているという感覚みたいなものがなくなって、気が付くと、勉強だけでなくスポーツも他の何もがんばれないというか、しまれないというか、けじめがつかないというか、気合がはいらぬというか、・・・とにかく知らないうちにダメになっていました。僕だけでなく、周囲の友だちも同じように感じていました。僕は、その学校を退学して、別の高校に入りなおしましたが、朝、制服に着替えることや、守らなければならない校則があると、こんなにも人間の気持ちは変わるのかと驚きました」

もちろん、ルール・規則のない方が気持ちよく充実した学校生活を送れる人もいます。しかし、ルール・規則がなければ、全て自分で考え、自分で判断しなければならなくなります。数日であれば簡単ですが、1ヶ月、1年、3年間毎日それが続くとなると大変です。

2学期中に、新しい制服導入にともなう校則の見直しを行います。生徒・保護者のみなさんの意見を聞く機会もあると思いますので、一人一人がじっくりと考えてみてください。

裏面に1学期末保護者アンケートの結果を掲載しています

2学期以降の学校教育改善の参考にさせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

